



## なんごく・こうち地方拠点都市



# アクションプログラム

⑦

## “自立への挑戦”はいま!

新開西国際空港が開走して、「世界」がさらに身近かになったという感じですが、いま、高知空港も滑走路を五百メートル延長して、二千五百メートルの国際空港化を目指した計画が進められています。今回は、その計画の最近の動きなどについて、ご紹介いたします。

### 高知空港の整備

平成十二年は

「約二百五十万人」

▲ 新開西国際空港が開港され、「世界」が一段と近くになったという感じですが、高知空港の整備は、どのようになっていますか。

高知空港は、昭和五十八年十二月、地権者や市民の理解と協力のもとに二千五百メートルに拡張され、ジェット機が初めて就航しました。

▲ ジェット機が就航することになって、利用客が大幅に増えたそうですね。

高知県が地理的に不便で大都市圏から遠隔の地にあることや大型の飛行機になったことで、年ごとに利用客が多くなっています。

昭和五十八年当時の利用客は約百十八万人でしたが、八年後の平成三年には約百七十六万人で、約五〇割の増となっています。なかでも、高知

東京便は毎年六ノ七割の伸びで平成三年には約六十五万人にもなりました。

このままいくと平成十二年には、全体で約二百五十万人の利用者が見込まれています。

▲ そこで、この需要にこたえるため、より大型のジェット機が就航できる空港の整備が必要であるとして今回

の再拡張になったわけですね。

平成三年十一月、国の第六次空港整備五カ年計画に高知空港の拡張整備計画

が組み込まれました。現在の滑走路二千メートルを五百メートル延長して二千五百メートルにする計画です。このため、新たに約二十四万の用地が必要になってきました。

心に高知空港再拡張対策協議会（末政博章会長）が組織され、平成五年六月に同協議会長と県知事、南国市長の三者で事業の実施についての基本合意がされました。その確認

なっています。

▲ 環境影響評価準備書の縦覧や説明会が行われましたが、今後の手順は……

環境に影響をおよぼす恐れのある要因を把握して調査・予測・評価を行い、環境保全対策に生かそうというものです。住民の意見は、九月五日に締め切られていますが、今後、県知事や曾田市長、吉川村長の意見を聞いて環境影響評価書がつくられ、広く市民に公表縦覧されます。

## 二千五百メートル国際空港へ 環境評価で保全対策

▲ 海側は物部川があるの、陸側に延長の計画のようですが、

ちよろし

ハウス地帯の優良農地をつぶすことになりますから大変です。地元地権者の中

書の主な柱は代替地の確保、ほ場整備、施設整備などの営農対策、適正な価格と補償です。このため、前提条件となる代替地の確保、営農対策などに取り組まれてきました。

▲ 国は今年、実施調査費九千万円を予算化したそうですが、どんなスケジュールで進められますか。

まず、空港整備の基本計画を決めて環境影響評価や航空法による一連の手続きを経て実施調査（地形調査、土質調査など）を行っていく手順に

説明会では、航空機の機種や便数、離発着の状況、騒音区域、工事中の課題などの質問、意見がありました。市は関係住民や市議会の意見を集約して、県知事に意見具申して行きます。国はこれに基づき正式の評価書をつくりますが「予測し得なかった著しい環境への影響が発生したときは適切な措置をとりたい」としています。

（次回は土佐くろしお鉄道阿佐西線の新設を）紹介します